

## 【今週の注目疾患】

### 《RSウイルス感染症》

2025年第5週における県内の小児科定点医療機関からの定点当たり報告数は、2週連続で増加し、第5週時点では直近5年間で最も高い0.46(人)となった(図1)。また、前週(第4週)時点において近隣都県(東京都、埼玉県、神奈川県、茨城県)を含め全国的に増加傾向にあることから、今後の発生動向に注意が必要である。

保健所管内別では、野田が1.25(人)と最も多く、次いで松戸が1.00(人)と続いた(図2)。

2025年第1週から第5週までに報告のあった累計132例の年齢構成は、0歳49例(37%)、1歳40例(30%)と、0歳及び1歳で約7割を占めた(図3)。

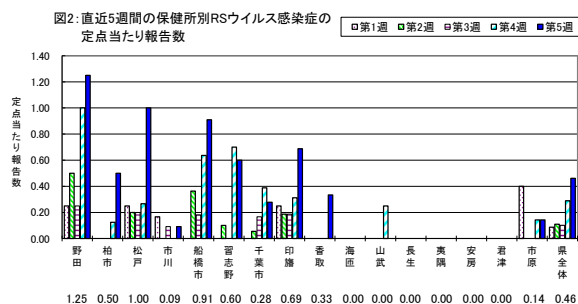
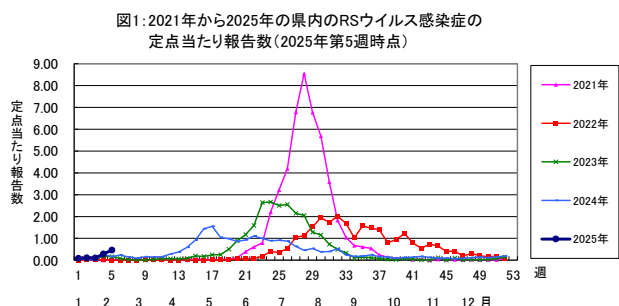
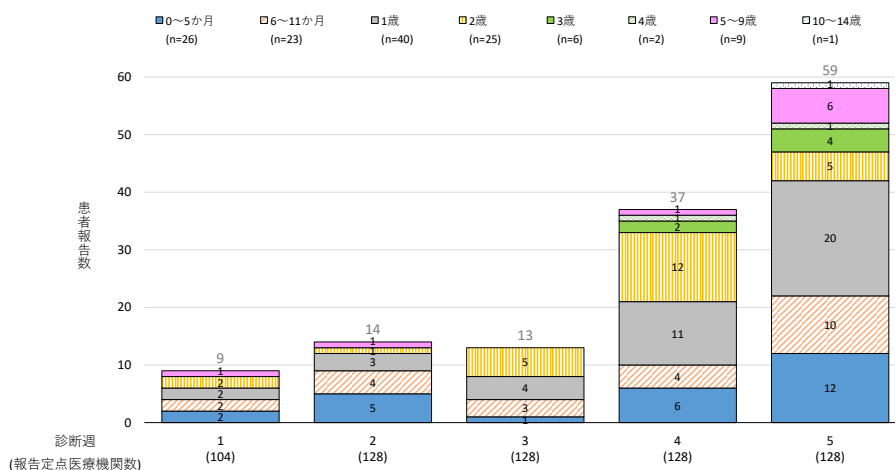


図3: 2025年第1週から第5週に県内の小児科定点医療機関から報告のあったRSウイルス感染症の診断週別年齢群別患者数



RSウイルス感染症は、RSウイルスを病原体とする、乳幼児に多く認められる急性呼吸器感染症である。潜伏期は2～8日であり、典型的には4～6日とされている。生後1歳までに50%以上の人が、2歳までにほぼ100%の人がRSウイルスの初感染を受けるが、再感染によるRSウイルス感染症も普遍的に認められる。初感染の場合、発熱、鼻汁などの上気道症状が出現し、うち約20～30%で気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現するとされる。乳幼児における肺炎の約50%、細気管支炎の約50～90%がRSウイルスによるとされる。早産の新生児や早産で出生後6か月以内の乳児、月齢24か月以下で免疫不全を伴う、あるいは血行動態の異常を伴う先天性心疾患や肺の基礎疾患を有する乳幼児、あるいはダウン症候群の児は重症化しやすい傾向がある。また、慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者においては、肺炎の合併が認められることも明らかになっている。なお、年長の子や成人における再感染例では、重症になることは少ないとされている<sup>2)</sup>。

国内では、生まれてくる児の予防を目的として妊婦に接種するワクチンや、60歳以上を対象とするワクチンがある<sup>3)</sup>。また、早産児等のハイリスク児を対象に、重症化予防のために投与されるパリビズマブやニルセビマブがある<sup>2)</sup>。パリビズマブ及びニルセビマブは、地域におけるRSウイルス感染症の流行状況に合わせて投与時期を決めることが推奨されており<sup>4)6)</sup>、本県に関しては、日本小児科学会千葉地方会ホームページにおいて投与時期の提案が定期的に行われている<sup>7)</sup>。

主な感染経路は、患者の咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、ウイルスの付着した手指や物品（ドアノブ、手すり、スイッチ、机、椅子、おもちゃ、コップ等）を触ったりなめたりすることによる接触感染である。特に家庭内にハイリスク者（乳幼児、慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者）がいる場合、罹患により重症となる可能性があるため注意を要する<sup>2,3)</sup>。

○飛沫感染対策

マスク着用（乳幼児以外）を含む咳エチケット

○接触感染対策

・手洗いや手指衛生

・日常的に触れるおもちゃや手すりなどのこまめなアルコールや塩素系の消毒剤による消毒

■引用・参考

1)国立感染症研究所:IDWR速報データ2025年第4週

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/data/13123-idwr-sokuho-data-j-2504.html>

2)国立感染症研究所:2024年第15号<注目すべき感染症> RSウイルス感染症

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rs-virus-m/rs-virus-idwrc/12658-idwrc-2415.html>

3)厚生労働省:RSウイルス感染症Q&A(令和6年5月31日改訂)

[https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs\\_qa.html](https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html)

4)日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会:日本におけるパリビズマブの使用に関するコンセンサスガイドライン

<https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20190402palivizumabGL.pdf>

5)日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会:日本におけるパリビズマブ適応追加に関連した注意事項

[https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20240514\\_Palivizumab.pdf](https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20240514_Palivizumab.pdf)

6)日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会:日本におけるニルセビマブの使用に関するコンセンサスガイドライン

[https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20240522Beyfortus\\_GL.pdf](https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20240522Beyfortus_GL.pdf)

7)日本小児科学会千葉地方会:千葉県におけるRSウイルス感染症流行予測とパリビズマブ／ニルセビマブ投与について

<https://www.m.chiba-u.jp/dept/pediatrics/chiba/>